

新若戸道路の整備と 若戸大橋の耐久性について

議員 新若戸道路整備事業は、響灘地区の交通需要への対応等を目的としているが、同地区への企業立地のスピードは予想以上である。計画を早める必要があるのではないかと。

また、開通が遅れば、若戸大橋の交通混雑は想定をはるかに超えるのではないかと。この場合、若戸大橋の耐久性維持の対策は考えているのか。

港湾空 新若戸道路の供用開始時期が目標である。一日も早い用を目指し、国や市道路公社とともに、工期短縮に向けて検討している。

建築都 若戸大橋の耐久性について、**市局長** としては、平成2年の4車線化拡幅工事の際、日本道路公団が十分な安全性を確認したと聞いている。

また、平成17年に若戸大橋を同公団から引き継いだ際も、検討委員会を設置し、総合的な安全性を確認した。

さらに、補修・補強計画と維持管理マニュアルを作成しており、現在はこれに基づいて、市道路公社が計画的に維持管理している。

食の北九州ブランドを守る！

議員 佐賀や鹿児島県産牛を但馬牛として販売する

産地偽装など、信頼を寄せるブランドの偽装が次々と明らかになった。本市でも、小倉牛や合馬たけのこ、豊前海一粒かきなど、全国に誇れるブランドがあり、これらの管理をしっかりと行うことが、ブランド価値を高めると考えるが、見解を尋ねる。

市長 農林水産物のブランド化は、農林水産業の振興だけでなく、本市の魅力づくりや都市イメージの向上にも貢献する大事なテーマである。

本市では、小倉牛などのブランドの価値を維持・向上させるため、①生産段階では、栽培管理や飼養技術の徹底、②出荷段階では、規格の厳格化や衛生検査の実施による品質保持、③販売面では、指定店販売制度の導入や商標登録の権利保護等を行っている。

今後とも、生産者団体や関係機関と連携した取組を強化して、消費者の期待や信頼を裏切らないよう、ブランドの確立に努めたい。



「豊前海一粒かき」



「合馬たけのこ」と

予算編成過程を 公開する目的は？

議員 来年度の予算編成のプロセスを市民や議会に公開しているが、過去の予算編成をどう改善しようとしているのか。

市長 予算編成過程を予算要求段階から公開することとは、全国的にも珍しく、政令市では札幌市に次いで2番目である。

まず、予算編成過程でパブリックコメントを実施することにより、市民の意見を予算に直接反映することができると。これは、市政への市民参画という点で、かなり大きな転換と考えている。

一方、議会に対しては、これまでよりも早く市の財政や予算要求状況を提供することで、時間をかけ、十分な論議ができることを期待している。

なお、来年度予算のあり方を中心に、初めてタウンミーティングを開催する。(12月20日開催済)

今後、市民との協働のまちづくりを進めていくため、できる限りの取組を重ねていきたい。

視点を変えて農業の見直しを！

議員 衰退の道をたどる農業ではなく、別の観点から見ると、農業は、生産性やビジネスである。例えば、農業の未経験者を、自然を守る環境維持農業者や地産地消を進める集団として育成してはどうか。

市長 農業は生産という本来の役割に加え、環境の保全や良好な景観の形成、文化の継承など、非常に重要で多岐にわたる機能を有している。

また、市民にとっても、農業は豊かな食生活をもたらす欠くことのできない産業である。

今後、団塊の世代で、自由な時間を持ち社会参加を希望する人がたくさん出てくる。これらの人に、いろんなチャンスを作ることが、行政にとっても重要な目標である。

そこで、農業未経験者を環境維持農業者などに育成することも真剣に検討すべき課題と考えており、「明日の農林水産業を考える懇話会」で議論してもらいたい。

未成年者の喫煙防止と出会い系サイト対策を進めよう

議員 未成年者の喫煙防止のため、たばこ業界が成年識別たばこ自動販売機の導入を計画している。この機会をとらえて、喫煙防止への取組をさらに進めるべきではないかと。

一方、携帯電話を利用した出会い系サイト等をきっかけに、子どもが事件に巻き込まれるケースが増えている。この対策として、どのような取組を行うのか。

子ども 未成年者の喫煙は、覚せい剤等の薬物乱用の入口であるといわれており、毎年小中学校で実施するシンナー等薬物乱用防止教室で、喫煙による体への影響などを啓発している。

一方、出会い系サイト等の有害環境から子どもを守るため、その

危険性を知らせ、フィルタリング(有害サイトアクセス制限サービス)ソフトの活用を促すリーフレット等を作成・配布した。

今後は、日本たばこ協会や携帯電話会社の関係業界に加わってもらい、家庭・地域・学校等との横断的な連携の下、意見交換等を行い、未成年者の喫煙防止や有害サイト対策を進めることにしている。

モンスターペアレント問題への支援策は？

議員 学校に対して理不尽な要求を繰り返す、いわゆるモンスターペアレントに関する話題をよく見聞きする。この問題解決のため、学校に対してどのような支援を行っているのか。

教育長 本市でも、身勝手な要求を繰り返す保護者への対応に苦慮する学校が相当数ある。

この支援策として、教育委員会に学校支援ラインを設け、42件の理不尽な要求等に対応した。具体的には、①保護者からの苦情対応、②学校での管理職への指導・助言、③保護者と学校の話し合いのパイプ役などに取り組んでいる。

しかし、理不尽な要求等を繰り返す保護者の対応には、同ラインだけでは限界があるため、8月から、弁護士や精神科医、警察官OBなどからなる学校支援チームによる相談体制を新たに確立し、問題の解決にあたっている。11月までに20件の事例に対し助言がされ、解決もしくは解決の方向である。